

Παράκλητος

パラクレートス

知っておきたいキリスト教のことば (129)
助け主 たすけぬし

新約聖書に 5 回出てくる「パラクレートス」というギリシア語は、新共同訳聖書および協会共同訳聖書ではいずれも「弁護者」と訳されています。もともとは「～の傍に呼び出される」という意味を持ち、「助け主」と訳すこともできます。

5 回のうち 4 回は、ヨハネによる福音書 14～16 章に載せられている「イエス様の告別説教」に出てきます。イエス様はご自分が十字架につけられる前に、食事の席で弟子たちの足を洗われました。そして弟子たちの中にご自分を裏切る者がいることを告げられ、ペトロが離反することを語られます。しかしその後、イエス様は弟子たちに対して長い告別説教を語るのです。

その告別説教の中で、聖霊に関することが約束されています。イエス様がこの世から離れて行ったとしても、弟子たちには聖霊が与えられるということです。そしてその聖霊のことを、イエス様は「パラクレートス(弁護者・助け主)」と呼んでいます。

つまり聖霊というのは、わたしたちを助けるために、神さまから与えられたものだということです。さらに「弁護者」という法廷用語が用いられていることから、わたしたちの罪を弁護し、本来であれば神さまの前に立つことなどできないわたしたちを、よき方向へと導いてくれるという意味も持つのです。

そして「パラクレートス」が出てくるもう一箇所は、ヨハネの手紙一 2 章 1 節です。ここではイエス様のことが「パラクレートス」と表現されています。

「たとえ罪を犯しても、御父のもとに弁護者、正しい方、イエス・キリストがおられます」という言葉は、わたしたちに大きな安心を与えてくれるのではないのでしょうか。

次回は「たとえ」です。お楽しみに。



「聖霊降臨」

ジョット・ディ・ボンドーネ

(1267 頃～1337 年)

わたしは父にお願いしよう。父は別の
弁護者を遣わして、永遠にあなたがた
と一緒にいるようにしてくださる。

(ヨハネによる福音書 14 章 16 節)

